

琉球病院 Monthly



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「新任の先生方のご紹介 2」

松元先生

まつもとじゅんた

4月から赴任しました、松元純大と申します。あだ名は「まつじゅん」です。趣味はインドア全般(将棋、ギター、映画鑑賞など)ですが、特に将棋はアマチュア三段取得し熱を注いでいます。趣味の事は(もちろん業務の事も)いつでも気軽にお声がけ下さい。何卒宜しくお願ひ致します。

齊藤先生

4月から赴任しました齊藤隆太と申します。琉球病院で勤務できることを大変嬉しく感じています。不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけするとは思いますが皆様と一緒に患者さんの回復の一助となれるように精一杯努める所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士 伊禮 有香里

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症を含むアディクション全般、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。最近では、うつ病治療に関する r-TMS の相談も増えております。新患に関しては予約制のためお待たせする期間もありますが、入院治療など早期の受診が必要な場合は地域医療連携室までお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停
下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖繩自動車道金武
インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、登録症例数は延べ437例になりました。2025年4月のCLZ登録症例は2例で、他の精神科病院からの紹介患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

東Ⅱ病棟

東Ⅱ病棟師長 宮城 尚子

令和7年4月より、沖縄県で初となる【精神科地域包括ケア病棟】が立ち上がりました。精神科地域包括ケア病棟とは、精神疾患を有する患者が地域に移行・定着できるよう支援するための病棟です。主に急性期治療を終了した患者に対して、地域生活への移行を支援する重点的なサービスが提供されます。

当病棟におきましても、地域包括ケアシステムの一環として質の高い精神医療の提供を目指しています。主治医が病状の評価に基づいた診療計画を作成し、適切な治療を実施するとともに、医師、看護職員、薬剤師、精神保健福祉士、作業療法士、心理士の多職種が協働して患者の希望や状態に応じて、退院後の療養生活を見据え、必要な療養上の指導、服薬指導、作業療法、相談支援、心理支援などを行います。開棟し間もないため、手探りな状況からのスタートではありますが、職員一同となり頑張っていきたいと思っております。皆様からのご支援、ご協力の程、宜しくお願いたします。

東Ⅲ病棟

東Ⅲ病棟師長 照屋 純二

当病棟は精神科急性期治療病棟 (アルコール依存症病棟) として運営しています。当病棟に入院される患者さんは、お酒を止めたくてもやめられない患者さんが自分の意志で入院してくる方が殆どです。

入院中は豊富なプログラムを医師、看護師、心理士、作業療法士などの多職種が専門性を発揮して企画しています。また、断酒会やアルコール依存症からの回復を目指したAA (アルコールクス・アノニマス)、薬物依存症からの回復を目指したNA (ナルコティクス・アノニマス) などの自助グループの協力があり回復の力となっています。アルコール依存症の患者さんは一人で回復することが難しく、家族や支援者の理解や協力が必要です。今年度5月16日より家族相談会を毎月2回 (第1、第3金曜日) に開催しています。お酒をやめたくてもやめられない方、患者さんとのかかわり方で悩んでいる家族や支援者の方、ひとりで悩まずぜひ専門スタッフまでご相談下さい。

こども心療科

心理療法士 新城 架乃

5月5日はこどもの日ということで、鯉のぼりなどの飾りつけを行いました。こども診療科では、季節に合わせた掲示をしたり、保護者の方へ向けた書籍コーナーを設置しています。お越しの際はぜひ注目してみてください。これからもお子さん、保護者の皆さんに少しでも安心して過ごしてもらえよう、スタッフ一同努めて参ります。



重症心身障がい部門

主任児童指導員 宮川 奏子

西ⅠⅡ病棟 (重症心身障がい児者病棟) では特別支援学校による訪問教育が行われています。令和7年度をむかえ、中学部に2名、高等部に1名の計3名の方が新たに入学されました。今は当たり前にある義務教育ですが、多くの障害児に対して就学猶予や就学免除の適用がなされていた時代がありました。当院の利用者さんの中にも学校教育を受けることが出来なかった方々がいらっしゃいます。教育行政との連携、ご家族との調整を行い、令和4年度より学校入学をすすめているところです。先生方が個々の利用者さんの強みなどを活かせるよう工夫を凝らした授業が展開されており、授業を受けられている利用者さんの表情を見ていますと、充実した時間となっていることが感じられます。貴重な学びの機会から得られたことを病棟生活でも活かしていけるよう、今後も学校との連携を図りながら支援の充実に取り組んでまいります。